2013(平成25)年度卒業式・修了式 式辞　　2014.3.24

皆様、ご卒業・ご修了おめでとうございます。
永年にわたりご子息・ご息女を支えてこられましたご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。
本学にとりましても、関係各位をはじめご来賓の皆様方のご臨席を賜り、平成25年度の卒業式・修了式を挙行できますことは、大変に誇らしく、大きな喜びであります。

総数2,035名の方が所定の全課程を修了し、晴れて本日のこの式典に臨むことができますのは、皆様ご自身の平素の切磋琢磨の賜物であり、心より深く敬意を表します。
このなかには、7カ国 の71名の留学生の方々もおられます。留学生の諸君は異文化の中で、きっとさまざまな困難に直面され、それを克服し、そして立派に初志を貫徹されました。その努力を心から讃えたいと思います。

同時に、これまでの長い学校教育の期間、皆様のご家族、恩師、先輩、同僚、後輩、そして社会から受けた恩恵には計り知れないものがあります。
また、皆様が大学生活を送った本学は、大阪市民の大学として 267 万の市民によって支えられてきたという事実にも思いを馳せていただきたいと思います。

皆様の多くは社会に巣立ち、高度な専門的職業人となることが期待されています。また、大学院に進学してさらに学業を続ける人、病院等で医療に従事する人、研究者として第一歩を踏み出す人もおられます。
いずれにしましても、今後も大阪市立大学の卒業生・修了

生の名に恥じないよう努力し、それぞれの領域で自らの目標を達成してください。
　本学では、それが実現できる教育に努めてまいりました。自信と誇りを持ってこれからの人生を歩んでいただきたいと願っております。

　本学は、2006 年に法人化をし、2011 年に第 1 期中期目標・中期計画の期間を終え、昨年の 2012 年 4 月から新たな 6 年間の第二期中期目標が始まっています。その中で、本学を、
　・わが国で数少ない公立の総合大学として 134 年の歴史と伝統を有し、
　・大学の普遍的使命である真理の探究はもとより、都市を学問創造の場と捉え、都市の諸問題に取り組み、特に都市科学分野の研究とシンクタンク機能を充実し、大阪・関西の活性化になくてはならない存在
　と位置付けております。
　さらに、「総合大学の魅力である多様性を強みとして、高度の専門性とグローバルで幅広い視野を有し、都市大阪の成長や社会の発展に貢献する有為な人材を育成」するという目標を掲げてきています。

　一方、今後の大阪の成長に貢献する公立大学のあり方を、外部有識者の意見を踏まえて将来ビジョンを策定するために、2013 年 1 月に外部有識者による「新大学構想会議」から「新大学構想〈提言〉」が府市統合本部に示され、これを受けて、大阪府市から「新大学ビジョン」（案）が策定され、パビリックコメントを経て 9 月 19 日に「新大学ビジョン」が提示されました。大阪府立大学とともに、新大学の教育・

研究分野についての検討組織として、各分野ごとのワーキング会議をベースに新大学推進会議を設け、10 月 9 日に両大学と府市の 4 者による「新大学案（10 月版）」を策定し、ホームページに公開いたしました。

この案は〈新世代の大学---大阪モデル〉と副題が付けられました。その心は「両大学がこれまでに培ってきた歴史、伝統を踏まえ、現在の両大学のブランド力を維持・充実させつつ円滑に新大学に継承・発展させうる新たな大学の在り方を世に問うことであり、国内外の大学間競争において激しさが増す中、統合により、機能と資源をフルに活用し、より高度な教育・研究体制を実現することで、大阪から、公立大学の新しい形を提起」しております。

皆様におかれましては、ご卒業後も本学の今後の新たな姿を注視していただき、温かいご支援をいただければと願っております。

本学における昨年のいくつかの話題を述べたいと思います。

第二期中期目標・中期計画の重点戦略の「都市科学分野の教育研究の展開とシンクタンク機能の充実」として、昨年の 6 月に 2 号館の東側に、大阪市からの多大の助成をいただいて人工光合成研究センターを開所することができました。2030 年に向かった人工光合成による次世代エネルギー開発研究の新たな基地となり、大いに注目を集めています。

7 月にはグランフロント大阪の西館 9F ナレッジキャピタルに「大阪市立大学健康科学イノベーションセンター」を開所させていただきました。文部科学省のグローバル COE 拠点

形成プログラムによる「疲労克服拠点」として本学が世界的にも突出した施設となっておりますが、今回はこの実績を基に疲労やアンチエイジングなどのテーマで産学連携や人材育成を強める拠点として設立しました。

さらには関西経済連合会の健康科学ビジネス推進機構の事務局をセンター内に設置していただき、大阪から全国へより具体的・発展的な基地として活躍を期待しています。

また、この 4 月には超高層複合ビルあべのハルカスの 21 階に予防医学・検診センターを設けることにしております。この部門は、「大阪市立大学医学部付属病院検診部クリニック MedCity 21」と命名しまして、5 大疾病・生活習慣病の早期発見・早期治療を行います。標準の人間ドックをはじめ、ガンの専門コースや脳、肺、心臓などの専門ドック、さらにはより詳しいエグゼクティブコースを専門医により行います。皆様が社会人として活躍されますが、常日頃より健康管理が大切となります。その折には本学のこのセンターが大いに役立たせていただけると思います。

検診事業もさることながら、これらの施設を基にさらにより専門的な先制医療の研究開発や人材育成に発展させたいと考えております。

また、学内施設の充実として、一昨年の６月に東口に連絡通学路としての「南部ストリート」が開設され、その通用門を「杉本門」と皆様から命名いただきました。　これに隣接する南北道路は昨年の 4 月に開通し、「さくら通り」と命名していただきました。

新理系学舎につきましては、中庭の整備などまだ残っておりますが、新学舎の整備はほぼ完成し、また、この新理系学舎の前の欅通りの整備も予定どうりに進み、新理系学舎と

欅通りの開所式を 4 月 10 日に行います。これで南部ストリートから欅通りへと美しいアクセッス歩行路となり、皆様方には少し遅ればせながらとはなりますが、学生諸君には喜んでいただけるのではないかと楽しみにしております。

また、本学の支援組織の充実として、2011 年 11 月に全学の統一同窓会としての大阪市立大学全学同窓会が設立され、このあとお話をいただくことになっている児玉隆夫元学長を会長として、今までの学部同窓会を基にして、今後はさらに同窓会活動を全学的に進めてきていただいております。これに先立ち、大学内に大学サポーター事務局を設け、大学もさらに協力して参りたいと考えております。

現在、はばたけ夢基金の募金を OB の先輩方や皆様にお願いいたしておりますが、次年度には本学の前身である大阪商科大学の杉本への本格移転から 80 周年になるとのことで、この 80 周年にちなんでキャンパス整備に向けた募金活動を行いたいと考えております。

ぜひ募金にもご協力いただければと思いますが、このプランでは、本館の整備や学術総合センターの改編のほか、田中記念館を大幅に改修し、同窓会館としてご卒業後も皆様にご利用いただけるようにしたいと考えております。これにより、大いに同窓会活動を盛り上げていただければと期待いたしております。

さらには、海外におきましても、上海同窓会が結成されており、昨年の 11 月に本学の上海交流拠点を設けました。実際に私ども関係者も出席して 11 月に上海でホームカミングデイを開催させていただきました。我が国の総領事や上海におられる多くの先輩方にご出席いただくことができました。

付け加えますと、タイのバンコクにも同窓会ができており、

今年中には拠点を設けたいと考えています。
　ますます同窓会活動も国際色を帯びてきております。皆様もこれから海外での活動の機会が多々あると思いますので、全学での同窓会活動はもとより海外の同窓会活動にもご参加いただき、海外で活躍する諸先輩との交流を温めていただければと願っております。

　さて、本日のこの佳き日のため、もう少しお話を申し上げたいと思います。
　コマツ製作所会長で、日本経済団体連合会（経団連）副会長でありました坂根正弘様は、皆さまもよくご存じだと思います。
　同氏は 1963 年に本学工学部をご卒業され、小松製作所にブルドーザーの設計技術者として入社。取締役、現コマツアメリカの社長を経て、2001 年に同社代表取締役社長兼 CEO に就任されました。
　現在は取締役会長を経て、特別顧問として、社業はもとより我が国の経済界での活躍とともに、安倍内閣の委員として社会的な事業にも貢献されておられます。
　東洋経済社から「言葉が人を動かす」というタイトル同氏の 3 冊目となる本を出版されておられます。この本では、このタイトルが示すように、人とのコミュニケーションが大切で、その中身に行動が伴うことが重要と説いておられます。その本の中で、坂根氏の座右の銘について触れられておられますのでご紹介したいと思います。

「知行合一」という言葉です。

これは王陽明の学説にあることばで、知識は行動のもとであり、行動は知識の発現であるといわれています。

この言葉は「知と行は同時一源のもの」と広辞苑では示されていますが、同氏は「知識と行動は合わさって初めて 1 つである」と強調されます。

そして、逆に自分の行動から得る知識の蓄積が自分の宝となることを「実践の場で繰り返して学んだことこそ本物だ」と明快に示されています。

諸君が社会に出られ、新たな世界で仕事なり、研究なりに着手されます。たぶん、きっと驚くほどに沢山のことを学ばなければならないと思います。

仕事をすることは、即、勉強することと必要に迫られることもあるでしょう。実際に行動しながら学び、学んだことを行動に移すことを繰り返す、これが皆様の社会人の基礎を作り、より社会人として発展させる基盤になる大切なステップであると考えてください。

ここを全力で体当たりしてください。きっと驚くほどの進歩を実感できる日が後に来ると言われているのです。そのとき、坂根先輩がこの言葉を座右の銘としておられたことを思い出してください。

「知行合一」です。

先日、詩人の「まど みちお」さんが 104 歳で亡くなられました。童謡の「ぞうさん」や「やぎさんゆうびん」などユーモラスでおおらかな作品でずいぶん親しまれている方です。この 3 月 1 日の読売新聞の「編集手帳」の欄に「まど」さんを悼む記事がありましたので、少し紹介してお話を終わりたいと思います。

1943 年に召集を受け帝国陸軍の船舶工兵として入営した

折のこと、近藤和一という調理師の友人ができました。二人して、上官から教練で「気合を入れる」ということで、ビンタをくらった直後のことでした。当時のことですからかなり激しく殴られたためか頭はふらつきボーとし、そのぼんやりした頭のまま、すぐ隣に座るその友人の帽子が目に留まりました。糸で縫い取られたカタカナの名前の縫込みを何気なく読むのですが、「コンドウ・カズイチ」、逆から読むと「チイズカ・ウドンコ」。友人は調理師で「チーズかうどん粉」？。おかしくなって笑った。普通は泣きたい場面です。でも「まど」さんはおかしみを感じることができました。彼の詩人としての感性、詩の生まれる水源の泉を見たようだと編集者は言います。

「まど」さんはかって「私は絶望感が持てないほど弱い人間だから」と語っていたといいます。

つらいことがあっても、ひどい仕打ちを受けてもそれを嘆かず、ほんの小さな楽しいこと、ほんの一瞬の美しいものを穏やかなまなざしで見つめ続けた人だったということですね。104 歳の長寿を全うされた「人としての豊かさ」のようなものを感じてしまいます。

社会、世界は急に、あるいは過激に変化し、変容してきています。また、恐ろしいほどの、そして予測すらできない出来事が襲ってきます。いろいろな場面、様々な状況がありうるこのような現代において生き方を考える、あるいは生き方を体得することが求められます。「まど」さんのような、あるいは個人々は少しづつ異なる感性があるとは思いますが、「一瞬の人としての余裕のような豊かさ」は素晴らしい宝ではないでしょうか？

本学は「抗疲労研究」では世界的な拠点です。疲労は運動によっては回復しない。直接ではなく、間接効果であり、直

接効果を持つのはartであるというのが、本学と共同研究も組んでいる脳科学で世界的に著名なロンドン大学の Semir Zeki 教授の研究です。単に肉体疲労のみではなく精神疲労を含めartが効果を有するということで、この「一瞬の人としての余裕のような豊かさ」は医学的にも意味を感じるところです。

本日は、社会に第一歩を歩まれる大切な日であります。自分で体験し、経験を蓄積し、自分で学んでいくことが求められます。また、皆さまの社会生活や職業人生活において、ご自分が専攻してきた専門とは異なった分野の勉強や、より高度な勉学を必要とする場合があろうとも思います。本学もこれから、さらに進化を続け、新たな新時代の大学へと変容していきます。機会を見つけて、本学の学びの場をおおいに利用していただければと思いますし、また、いつの日か、諸君も実社会での豊富な経験と実績を後輩の学生諸君に還元していただける場を持っていただければと期待しております。
種々の立場で、本学を支援し、本学を愛し、そして本学で再びお会いできることを楽しみにいたしたいと思います。

皆さま、本学で学んだ「進取の気風」と「在野の精神」を持ち続けてください。
そして健康で充実した生活、そして逞しい生きざまを創ってください。
以上をもって皆さまの大いなる前途を祝して、本日の卒業式・修了式の私の祝辞といたしたいと思います。

本日は本当におめでとう。